

東北地方(被災地)及び関東圏でのガソリン・軽油等の供給確保 ー緊急の供給確保措置と拡大輸送ルートの設定ー

4月2日(土)
8時時点

民間備蓄義務日数:70日→45日

石油事業者による石油製品の在庫の取り崩し、事業者間・地域間の相互融通を円滑化することにより、我が国全体としての石油の効率的な供給を確保するため、民間備蓄義務を追加的に22日分引き下げ、これまでの引き下げ(3日分)と合わせ、合計25日分を引き下げ。

<本日のポイント>

- ・LPガス国家備蓄を活用すべく、3/31に4万トンの放出を決定。
- ・東北へのタンクローリーについて、4月上旬までに約300台まで確保見通し。
- ・元売会社のホームページでSSの営業状況を公表し、石連がとりまとめて各県に情報提供。

東北地方(被災地)向け

タンクローリーを抜本的に追加投入(300台増)

→**279**台を東北に追加投入済み。**4月上旬までに**約300台まで確保見通し。

西日本の製油所からのガソリン等の東北地方への大量転送

→日量3.8万klの供給余力は確保
※現在の東北地方への供給:2.2万kl/日
→製油所の稼働率:フル稼働を確保
→輸出停止分:当面約70万kl
→緊急輸入:3~4月で50万kl強

太平洋側の油槽所(塩竈油槽所・八戸油槽所)の早期の機能回復

→(塩竈油槽所)**4/1**までに**25**船(計約**6.3**万kl)着棧済。
→(八戸油槽所)**3/31**、ガソリン等を約**3750**kl出荷。**4/1**までに**8**船(計約**2.0**万kl)着棧済。
→(JX仙台製油所)**3/31**までにドラム缶で灯軽油約1000本を出荷。

緊急重点SSの指定と重点供給

→東北6県の緊急重点(207件)のうち、3/19~**31**に延べ**1691**のSSに対して重点供給を実施。
→3/31現在、東北地方にある元売系列の3070のSSのうち、**84%**にあたる**2569**のSSが稼働中。
→**元売会社のホームページでSSの営業状況を公表し、石連がとりまとめて各県に情報提供。**

福島原発周辺地域への支援

→福島県より、3/19、22、26、30に、周辺地域住民向けのガソリン等(計約1110kl)の支援要請あり。**3/31までに全量を供給済。**

鉄道による輸送ルートの確保

→3/21以降、根岸→盛岡へガソリン等(約1300kl/日)を輸送。
→3/21以降、宇都宮へガソリン等(約6000kl/日)を輸送し、この一部を東北地域(福島県等)に搬送。
→4/1以降、根岸→郡山へのガソリン等の出荷量が増量(約1200kl)。

被災地からの要請への対応状況

→**3/31**までに、病院等約**1422**件の要請に対し、約**1317**件に対応し、約**1.46万**klのガソリン・軽油等を搬送済み。

特に供給不足が著しい地域への重点供給対策 (ドラム缶による大量輸送等)

→被災者向けに3/27に約4000本(灯油、軽油)を自衛隊に搬入済。
→石油連盟による2000本(灯油等)無償提供については、岩手県、福島県とは搬送先を調整し、4月上旬出荷予定。宮城県とは継続調整中。

LPガス対策(東北地方(被災地)向け)

→病院、避難所の炊き出し用等にボンベ等の無償提供を実施(6500人分)。
→カセットコンロ約2万台、カセットボンベ約11万本を被災地に無償提供。
→**LPガス国家備蓄を活用すべく、3/31に4万トンの放出を決定。**

「仮設ミニSS」の設置

→3/27~**4/1**に計**9市町村**に「仮設ミニSS」を設置し、累計で約**3900**台に対して給油を実施。

関東圏向け

3/21から、関東圏向けの出荷量は平年並みに回復

○製品在庫を関東圏に転送

→**3/25**以降3日間程度で6万kl程度を転送済。

○関東圏の製品在庫の取り崩し ○事業者間連携による円滑な供給体制
緊急重点SSの指定と重点供給(上記と同様)

→2製油所(東燃・川崎、極東石油・千葉)は運転再開済み。JX・根岸も、3/21に運転開始。

→北関東への供給の正常化。3/21以降、宇都宮・高崎への鉄道出荷が正常化(ガソリン等合計約1.1万kl/日を輸送)。

→**3/31**現在、関東地方にある元売系列の6661のSSのうち、**95%**にあたる**6335**のSSが稼働中。